

英語科で育てたい生徒

福井県中学校教育研究会英語部会及び福井地区中学校教育研究会英語部会では「聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどの言語活動を通して、英語で主体的にコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成」を目指している。それを受けて、本校英語科では「主体的に英語で自分の考えや気持ちを伝え合う生徒の育成」を目指し授業づくりに取り組んでいる。

・授業実践より

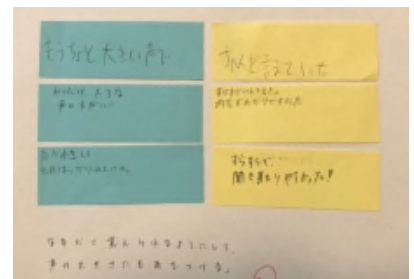
【実践1】 New Horizon English Course I Unit7 Foreign Artists in Japan と Stage Activity2 My Hero

<授業のねらい>

仲間からのアドバイス、相互評価、振り返りを生かし、主体的にコミュニケーション方法を向上させる。

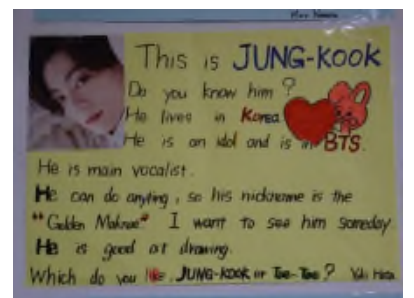
<単元構成など>

Unit7 では、日本の伝統工芸や伝統文化に取り組む外国人も含め、世界で活躍する外国人を個人が iPad で調べてポスターを作り、グループ内で発表した。どの生徒も発表の中でグループの生徒と Which do you like, ~ or ...? のように Which を用いてやり取りを行うようにした。また、練習段階で互いに付箋を使ってアドバイスし、それをもとに発表本番に向けて準備した。本番では、A loud voice, Information, Style の3つの観点について、1点から4点の12点満点で相互評価を行った。ALT、JTE も一緒に評価し、合計点を出して順位を発表し、振り返りをした。



[Unit7 練習段階の付箋によるアドバイス]

また、SA2 では、好きな有名人や家族、自分が尊敬する人について、What does he do? Why do you like him? など疑問詞を使って対話した後、個人でその人物についてポスターを作り発表した。できるだけ英文ではなく、キーワードを用いてポスターを作った。発表前に、2人の生徒にリハーサルを見てもらい、アドバイスをもらってから発表に臨んだ。各15人程度のグループ内で発表を行い、Unit7 同様の相互評価を行い順位を競った。



[Unit7 世界で活躍する外国人のポスター]

<授業実践を通しての学び>

SA2 では、Unit7 での振り返りやりリハーサルでの仲間からのアドバイス生かし発表を行った。SA2 では Unit7 での発表に比べ、聴き手の方を見て、時々キーワードを指しながら話すことができた生徒が増えた。「全部覚えられなかったけど半分は見ずに言えたからよかった。みんなに聞こえるようにした」「練習よりもゆっくりしゃべったり、みんなに伝わっているかを一文一文気を付けて発表しました」「いつもよりか大きい声が出せたと思う。緊張していたけど、ゆっくり話せたと思う」「T くんの手振り手振りが大きくてよかった」のような振り返りがあった。今回の振り返りをファイルしておき、次の発表活動前に見直す時間を設けたい。また、次の活動では、生徒同士が英語で、発表後に発表についての簡単なやり取りができるよう工夫していきたい。

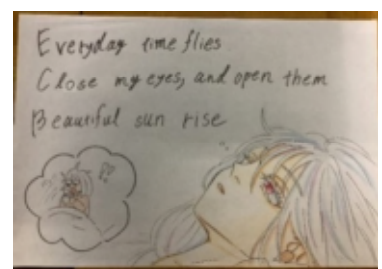


[Stage Activity2 My Heroのポスター]

【実践2】 単元名 New Horizon English CourseIII Unit2 Haiku in English

<授業のねらい>

クラスや他校の生徒、ALT の友人らとのやり取りを通して、主体的に英語俳句の魅力について考えを深めさせる。



<単元構成など>

国見中学校の生徒と Teams を使って、互いの英語俳句について I think you felt~, right? などの簡単な英語でやり取りを行った。国見中学校生徒の英語俳句は、地域の風景や日々の生活について手描きの絵と一緒に一枚の絵に表現され、本校生徒の英語俳句は学校行事を題材に読み、行事の写真とともに紹介した。他校の生徒に紹介するとあって、生徒たちは懸命に英語俳句作りに取り組んでいた。しかし中には、英語俳句にどんな単語使えばよいか迷う生徒もいた。そのような生徒には、教員が生徒に質問し、一緒にマインドマップを描きながら、生徒が納得する単語を一緒に探した。そして次に、単語を使う順を一緒に考えて俳句を仕上げることができた。

ALT の友人とは、全員が俳句を交換する時間がなかったため一部の生徒のみがやり取りを行った。携帯画面をテレビに写し全員でやり取りの様子を見ていたが、どの生徒もやり取りの様子を食い入るように見ていた。

<授業実践を通しての学び>

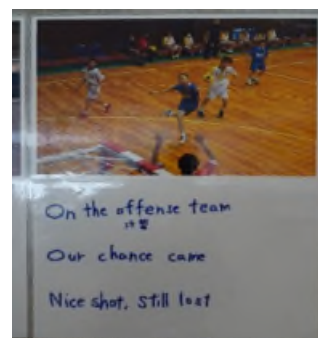
Teams や Line のビデオ通話を使ったやり取りを用いたことにより、生徒のやる気を引き出すことができたと考えられる。しかし、Teams 使用時は、通信環境が悪くて声が聞こえづらく予想以上に時間がかかった。今後、他校とやり取りを行う時には、どんな通信機器を使うかを十分に検討したい。単元の最後の授業で、生徒は俳句の魅力について簡単な英語で振り返りを書いた。

・ I think haiku is attractive because we can express many things. At first, I didn't like English haiku, but I like English haiku now.

・ I don't think haiku is attractive because I don't feel the rhythm. But I like Japanese haiku.

英語が苦手な生徒も含め、全員が英語俳句作りを体験したことで、俳句の魅力について自身の体験を通して考えることができた。そして、英語俳句だけでなく日本の俳句のよさにも気づくことができた。今後もペアやグループでの英語作品づくりや発表に加え、個人での英語表現活動を多く取り入れたい。時間や手間がかかる分学びが大きいと感じた。

[国見中学校生徒の俳句]



[本校生徒の俳句]